

Weekly-Report

C X 週間展望 (8月30日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「26-28日にワシントン州ジャクソンホールで開かれるFRBの年次シンポジウムが最重要イベント。パウエルFRB議長が、こういったシナリオの可能性を示唆するのか注目。パウエル議長の講演は東部時間27日午前10時(日本時間の27日の午後11時)に行われる予定。

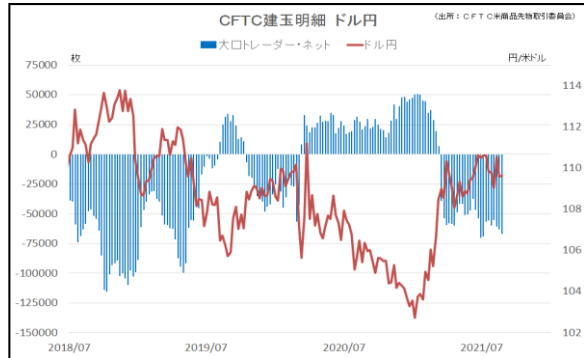
感染拡大の影響が雇用回復にどの程度、影響するのか、一方でインフレ上昇が想定通りに鎮静化して行くのかを見極めようと、議長講演で大きく反応せず、8月の雇用統計(9/3)を待つ動きとなるかもしれない。

秋口は季節的要因から原油も穀物市場も下向き圧力が掛かりやすく、この落ち着いた時間帯で出口戦略を一步、進めたい意向がFRBにはあるだろうが、株式市場が大きく崩れた場合、テーパリング開始は困難と思われる。年末にかけては再び、原油が暖房需要・中東の地政学リスクで、穀物市場は低在庫で再上昇が予想され、インフレ懸念の高まりでFRBのかじ取りは、難しくなるだろう。》としたが、先週は、

ジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長講演を控え、積極的な売買は限られた中、米株価は史上最高値圏で堅調推移しており、セントルイス連銀のブラード総裁は米CNBCで「今の段階で資産購入は必要ないかもしれない」と述べ、来年早々に資産購入を終わらせるべきだと主張した。カンザスシティ連銀のジョージ総裁も「遅かれ早かれテーパリング(量的緩和の縮小)について協議する準備ができています」と話した。

これら金融緩和縮小に前向きな「タカ派」発言を受けて米債券市場で長期金利が上昇し、日米金利差の拡大を見越した円売りドル買いが緩やかながら優勢だった。

ジャクソンホール会議待ちの様相を呈しており、ドル円は109円台前半から110円台前半でのレンジ相場が続いている。ユーロドルは1.17ドルを割り込んだ後は上昇に転じて、1.17台でのみ合い。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (8月30日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

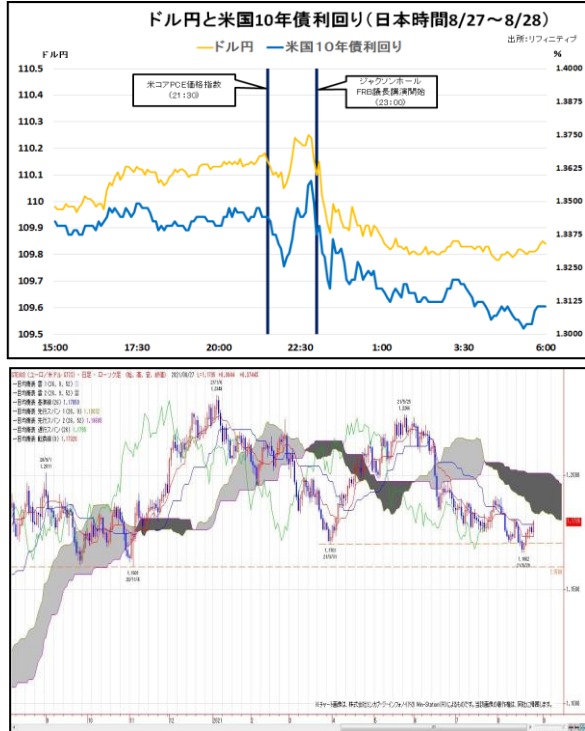
週末のドル円は、パウエルFRB議長がジャクソンホール講演で利上げに慎重な姿勢を示し、緩和的な金融政策が長く続くとの見方からドルが主要通貨に対して下落した。パウエル議長は、テーパリング（量的緩和の縮小）の年内開始が適切との見解を示した一方、テーパリングの開始時期やペースは「利上げの時期についての直接的なシグナルを示すものではない」とも述べた。ユーロは対ドルで反発し、前日比0.0050ドル高い1ユーロ=1.1795~1.805ドルで終えた。

CFTC建玉明細(8/24現在)は、66,671枚の売り越し。前週(63,208枚の売り越し)から拡大。

昨晚のNYダウは反発し、前日比242ドル68セント高の3万5455ドル80セントで終えた。ナスダック総合株価指数も反発し、前日比183.694ポイント高の1万5129.501と過去最高値を更新。S&P500種株価指数も反発し、前日比39.37ポイント高の4509.37と初めて節目の4500を上回って終えた。

ジャクソンホール会議で講演したパウエル議長は「7月のFOMCで自身が大半の参加者と同様、年内の資産購入縮小開始が適切になるとみていた」と述べ、年内のテーパリング（量的緩和の縮小）開始が適切との見解を示した一方、「テーパリングは将来の利上げ時期を直接的に示唆するものではない」と早期の利上げ観測は否定した。おおむね市場の予想に沿った内容だったが、議長が緩和縮小の前倒しなどに言及しなかったことで改めて買い安心感が広がった。

朝方発表の7月の米個人消費支出(PCE)は前月比0.3%増と市場予想と一致。FRBが重視する物価指標のコアPCEデフレーターは前年同月比3.6%上昇と高い伸びが続いたが、市場予想と一致した。



Weekly-Report



C X 週間展望 (8月30日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(3)

【今週見通し・戦略】

ジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演を受けて、一目均衡表(日足)の雲で抑えられ、戻りは売られた。ただし、雲の厚みが薄くなる時間帯で、雲の支持線としても抵抗線としても信頼性が落ち込む時間帯。

米8月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値が70.2となり、事前予想の81.2や前回の81.2を大きく下回るなど、景況感を示す米マクロ指数の悪化や伸びの鈍化が目立っており、米ISMや米PMIにも注目が集まる。

3日の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は78.7万人増となり、前回の94.3万人増から伸びは鈍化する見通し。前回(7月分)のように事前予想を上回るようなら、一部のFOMCメンバーからは9月FOMCで資産購入ペース縮小を開始し、来年第1四半期までには資産購入を終了すべきとのタカ派な声も出ており、再びテーパリング観測が高まり、ドル高に傾きやすくなる可能性も。ただし、デルタ株の感染拡大や、アフガン自爆テロなど不確定要因も増えており、季節的には年後半にかけて、ドル円は戻り売り有利な時間帯へ向かう。これまで通り、狭レンジ相場が継続して保合い放れを待つ展開か。

アフガニスタンでは、グローバル企業のプレゼンスが限られており、国際金融市場とのつながりは極めて小さく、短期的には金融市場への影響は限定的となるだろうが、カブール陥落は、米国覇権の長期的な継続性に疑問を投げ掛けるものとなるだろう。コロナでの金融・財政政策の総動員で、世界の負債総量は記録的水準にまで膨らんでいる。「不換通貨」の限界や、ドルの基軸通貨体制の綻びを受け、改めて金の持つ「安全資産」の顔が評価されてきそう。



Weekly-Report



C X 週間展望 (8月30日～)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(8/27 清算値:6,369円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《量的緩和策の縮小を巡り、早ければ9月の次回政策会で開始時期を判断するシナリオも意識されているが、ジャクソンホールでのFRB議長講演で動きが出なければ、8月の雇用統計(9/3)まで様子見ムードが続く可能性も。

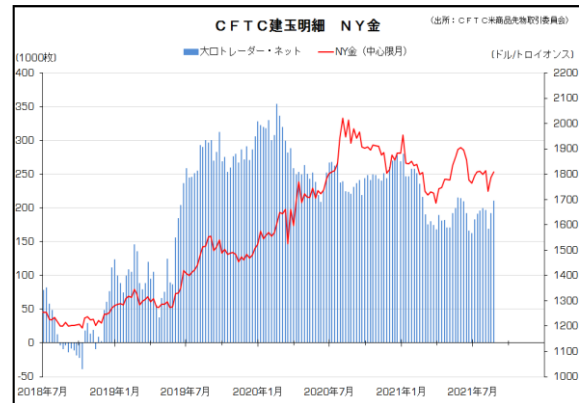
前月並みの改善が続けば、テーパリング思惑が高まりそうだが、FRB議長はサービス業の雇用は「完全回復には程遠い」と慎重な姿勢を示しており、季節的な下げ要因に加え、シェール増産観測・世界的なデルタ株の感染再拡大に伴う需要減少などからNY株式市場も下落リスクが高まるだろう。

秋口は季節的要因から原油も穀物市場も下向き圧力の掛かりやすく、この落ち着いた時間帯で出口戦略を一步、進めたい意向がFRBにはあるだろうが、株式市場が大きく崩れた場合、テーパリング開始は困難と思われ、結局は、変異株が景気と雇用回復に及ぼす影響などを見極めるとして、先送りの可能性も残る。

年末にかけては再び、原油、穀物市場ともに再上昇が予想され、インフレ懸念の高まりでFRBのかじ取りは、難しくなる。不確定要因が高まれば高まる程、「安全資産」としての金に注目が集まる。押し目買い方針継続。》としたが、先週のNY金(12月限)は、27日のパウエルFRB議長の講演を控え、量的緩和の縮小(テーパリング)について慎重姿勢が示されるとの見方もあるなか、ファイザーワクチンの承認を好感した株高・原油高などリスク選好の動きを受けて上値を伸ばした。ネックライン(8/17高値)～心理的節目1800ドルを上抜き。雇用統計ショックで売り込んだ向きのショートカバーも入り急伸した。

ただ、予想以上の米耐久財受注を受けたドル高や、金融緩和の縮小に前向きな米金融当局者の「タカ派」発言を受けて米長期金利上昇を嫌気して、200日移動平均線で上値が抑えられた。

その後は、カブール空港での爆発を受けてアフガン情勢に対する懸念から押し目を買われ、下値もしかりとなった。



Weekly-Report



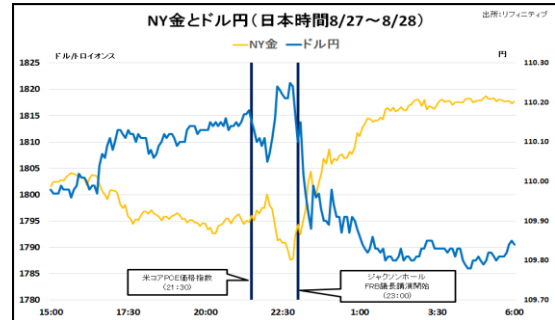
C X 週間展望 (8月30日~)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(8/27 清算値:6,369円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(12月限)は、続伸。米金融当局者のタカ派発言を受けて戻りを売られ、1785.2ドルまで下落後は、アフガン情勢に対する懸念に加え、パウエルFRB議長の慎重姿勢を受けて押し目を買われた。時間外取引の高値を突破すると、1821.7ドルまで上昇した。FRB議長は、テーパリング(量的緩和の縮小)開始時期については年内が適切との見方を示しながらも、テーパリングは将来の利上げ時期を直接的に示唆するものではないと早期の利上げ観測は否定した。CFTC建玉明細(8/24 現在)は、210,653枚の買い越し。前週(191,542枚の買い越し)から拡大。



【今週見通し・戦略】

パウエルFRB議長講演では、早期の量的緩和縮小観測が後退した。今後は市場の関心は雇用統計に移行し、前回並みの強気の数字が出れば、再度、テーパリング思惑が高まりそうだが、アフガニスタンの自爆テロや、新型コロナウイルスの再拡大など不確定要因は多く、原油が高値を伺う流れとなっている中、出口戦略(テーパリング・利上げ)は、近くて遠い道となるかもしれない。

8月26日には、カブール国際空港の自爆テロにより、米兵を含む70人超が死亡した。米国を攻撃する脅威はなく、「任務は成功した」と訴え、米軍を早々に撤退させたバイデン大統領の国内支持率は、急速に落ち込んでいくだろう。米国の核(軍事力)の傘の庇護にいる同盟国も、「どんな綺麗ごとを言っても、最後は米国の都合で守ってくれない」と言う不安感が増している。2013年にオバマ大統領が宣言した「米国は、世界の警察官ではない」と言う同盟国にとっては信じたくない事実が、いよいよ現実化してきた格好だ。NYは1800ドル水準が下値支持に変化しており、1850ドルの攻防戦へ。終値ベースで、同水準を上抜くと、さらに強気感が増す。

Weekly-Report



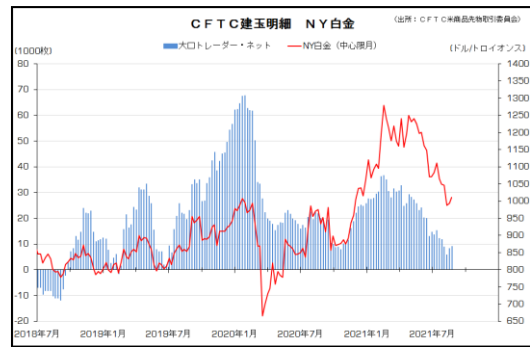
C X 週間展望 (8月30日～)

調査課 菊川 弘之

白金先物(8/27 清算値:3,477円)

【前週レビュー】

先週レポートで「欧米でワクチン接種が進み、集団免疫を獲得し、感染拡大が収束するとの見方が出ていたが、デルタ株の感染拡大が続き、追加接種（ブースター接種）の動きとなっている。トヨタは半導体不足に加え、東南アジアでの感染拡大で部品調達に支障が出ていることから、9月の世界生産を4割減らすとした。」



NYは1000ドル以下では買い拾われるが、ネックライン（1029.2ドル）を明確に超えてこないと底打ち感が出てこない。同水準の攻防が焦点。》としたが、先週のNY白金（10月限）は、週初こそ株高・金急伸を受けて続伸したものの、1019.1ドル（8/24高値）を起点に週末にかけて下値を切り下げた。米金融当局者の量的緩和の縮小（テーパリング）に関する発言を受けて株価の戻りが売られたことから売り優勢となった。米金融当局者の量的緩和の縮小（テーパリング）に関する発言が圧迫要因になった。またカブール空港での爆発でテロ懸念が高まった事も下げの一因となった。

週末のNY白金（10月限）は、反発。パウエルFRB議長の慎重姿勢を受けて押し目を買われ、序盤の高値を突破すると、テクニカル要因の買いが入って1008.2ドルまで上昇。パウエルFRB議長はジャクソンホール講演で、テーパリング開始時期については年内が適切との見方を示しながらも、具体的な時期については明言を避けた。CFTC建玉明細（8/24現在）は、9,143枚の買い越し。前週（8,358枚の買い越し）から拡大。

【今週見通し・戦略】

8月以降、1000ドル以下は3回買い拾われた。終値ベースでネックライン（8/13高値1029.2ドル）水準を上抜いてくると、トリプルボトム完成となり、強気感増す。同水準の攻防が焦点。中国国家備蓄当局は27日、金属価格の高騰を抑制するため、計15万トンの国家戦略金属備蓄（銅・亜鉛・アルミ）を、9月1日の公開入札を通じて売却すると発表している点は注意。

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望（8月30日～）

ゴムRSS3(8/27 清算値:206.5円)

【先週レビュー】

先週レポートで《～前略》。供給障害懸念で買われたものの、2月高値を起点とした下降チャネル上限で上値が抑えられた。季節的には戻り売り圧力の強い時間帯で、鞘滑り懸念もある中、半導体不足などからトヨタ自動車の世界生産を4割減らす（9月）との発表など需要減少が材料視されている。心理的節目200円を維持できるか否かが焦点》としたが、先週のRSS3号は、季節的には戻り売り圧力の強い時間帯で、鞘滑り懸念もある中、半導体不足などからトヨタ自動車の世界生産を4割減らす（9月）との発表など需要減少が材料視されて大幅続落した前週の流れを引き継いで始まった。株高や金や原油高も一因となった。



ただし、上海ゴムが軟化したことを嫌気して週末にかけて反落。JPXも心理的節目200円を伺う展開となった。一代足ベースでは鞘滑りとなっている。

2021年8月限は、前日比0.1円高の203.1円で平穏納会。

JPXゴムRSS3号新甫2022年2月限は、215.7円で発会。

【全国生ゴム営業倉庫在庫】

全国生ゴム営業倉庫在庫は、8月10日現在9,760トン（前旬比468トン減）。8月上旬の入出庫は入庫696トン、出庫696トン。

【今週見通し・戦略】

中国新規貸出が減少し景気減速が懸念される中、上海ゴムが急落。東京市場も順鞘の鞘滑りを含む続落となったが、今回の下落により全限月が産地対比「割安」になっており、ジャクソンホールでのパウエルFRB議長講演で、緩和的な金融政策が当面は続くとの見方が高まっており、JPXゴム先限も心理的節目200円が下値支持として意識される可能性も。

ただし、2月高値を起点とした下降チャネルは継続しており、220円水準では上値抵抗を受けそう。中国当局の市場規制、および監視が強まっていることも、商品市場の重石となっている。

Weekly-Report



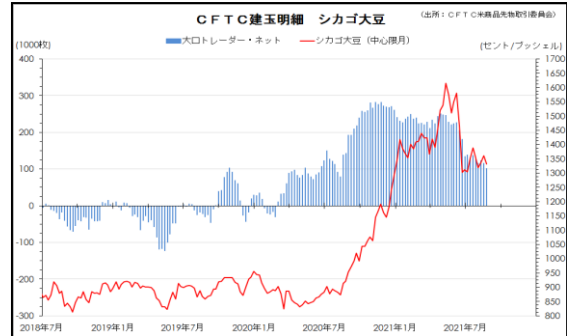
C X 週間展望 (8月30日～)

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(8/27 清算値:64,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで《プロファーマー・クロップツア調査は、現段階で強弱まちまち。今後に発表される干ばつに見舞われたミネソタ州の調査結果が注目》としたが、先週のシカゴ大豆(11月限)は、前週末の大幅下落後で修正の買い戻しで始まった。作柄報告で「良」以上の比率が引き下げられたことが材料視され、デイリーでの大口成約や、長期天気予報でアルゼンチンの乾燥予報が浮上した事、金及び原油市場の堅調な足取りも強気材料となった。ただ、米産地北部降雨は、コーン作柄改善にとって遅すぎる雨でも、遅い時期に作付される大豆にとっては恵みの雨になるとの見方が重石となった。



週末のシカゴ大豆(11月限)は、続落。米農務省からデイリー報告で大口の輸出成約が発表されたが、米コーンベルト北部を中心として降雨が続いていることで、作柄が改善するとの見方に圧迫された。CFTC建玉明細(8/24 現在)は、101,647枚の買い越し。前週(116,404枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(8月19日までの一週間)】

大豆: 182万5100トン(事前予想レンジ: 45万~90万トン)

【週間作物進捗報告(8月22日までの週)】

開花率: 97%(前週94%、前年99%、平年97%)

着さや率: 88%(前週81%、前年91%、平年87%)

落葉率: 3%(前週—、前年4%、平年3%)

「良」以上: 56%(前週59% 前年69%)

「劣」以下: 16%(前週15% 前年8%)

【今週の見通し・戦略】

徐々にハーベストプレッシャー(収穫期の下げ圧力)が意識される時間帯になるが、危機的な低在庫水準には変化はなく、季節的な下げ圧力は限定的となる可能性。季節的に上値は重い、13ドルを挟んでのレンジ商いで底固めへ。

Weekly-Report



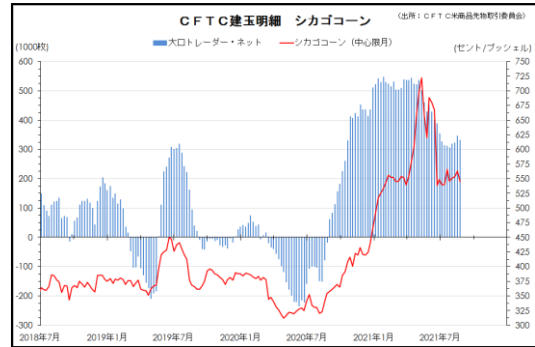
C X 週間展望（8月30日～）

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(8/27 清算値:34,300円)

【先週レビュー】

先週レポートで「心理的節目500」が試される流れへ。5月以降、同水準が下値支持として機能しており。維持されれば徐々に底固めへ移行する」としたが、先週のシカゴは、クロップツア調査（単収が過去3年平均を上回る州が多かった）を受けて豊作観測が強まったうえ、降雨が弱材料視されて始まった。米環境保護庁（EPA）によるバイオ燃料の最低使用義務量の引き下げ観測も売りを呼ぶ要因となったが、作柄のうち「良」以上が引き下げられ、大口成約や大豆市場の堅調な足取り、原油高も一因となり、529.5セント（8/23 安値）を起点として、週末にかけて下値を切り上げた。



週末のシカゴコーン（12月限）は、上伸。北部中心に降雨が続いているが、コーンにとってはすでに作柄に影響に影響しないとの見方で、コロンビア向け大口輸出成約も好感された。CFTC建玉明細（8/24 現在）は、330,967枚の買い越し。前週（345,846枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（8月19日までの一週間）】

コーン：69万0600トン（事前予想レンジ：25万～100万トン）

【週間作物進捗報告（8月22日までの週）】

デント率：41%（前週22% 前年41% 平年38%）

成熟率：4%（前週 — 前年5% 平年4%）

「良」以上：60%（前週62% 前年64%）

「劣」以下：14%（前週13% 前年12%）

【今週の見通し・戦略】

デント～成熟期になると、降雨があっても作柄改善は難しくなるうえ、9月10日に発表される需給報告で生産、イールド、期末在庫が下方修正される可能性もあり、550を挟んだレンジ商いで底固めへ。

Weekly-Report



C X 週間展望 (8月30日～)

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

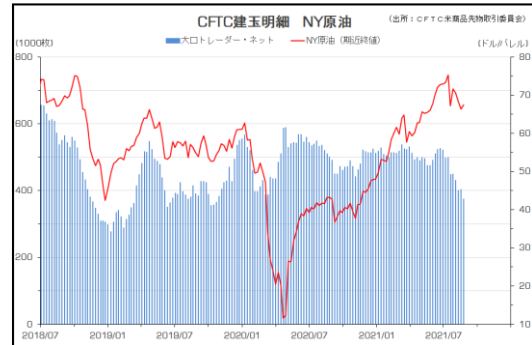
先週レポートで「レイバーデーで米国のドライブシーズンは終了し、冬季の暖房需要が始まる前の需要の端境の時期に向かう事で、季節的には下げ圧力の高まる時期。ハリケーン被害等で反発する場面があっても、戻り売りされやすい傾向。テクニカル的には、ネックラインと重なる心理的節目65ドルを割り込んだことで、200日移動平均線(59.5ドル)の攻防戦へ。下値目標値は、V=56.8ドル、E=55.0ドル。9月1日にOPECプラス会合が開かれる。価格下落に対して、OPEC側から何か牽制発言が出てくるか否かに注目」としたが、先週のNY原油(10月限)は、新型コロナウイルスのデルタ株が世界的に流行し、需要回復見通しが不透明となっていることから前週末までに7日続落したため、値頃感からの買いが入って始まった。ジャクソンホール会合がオンライン開催に急遽変更となったことで、FRBがデルタ株の流行に対して慎重になっているとの連想や、世界第2位の石油消費国である中国で、22日の新規感染者数がゼロだったと伝わったことも一因。

米食品医薬品局(FDA)が米ファイザーと独ビオンテックが開発した新型コロナウイルスのワクチンを迅速に正式に承認したことで未接種者への義務化などが拡大し、流行がおさまることが期待された。

メキシコ国営石油会社ペメックスの海上油田で火災が発生し、日量40万バレル超の減産が発生していることも支援要因。

米エネルギー情報局(EIA)週間在庫統計で原油やガソリン在庫が市場予想以上に減少したことが好感された。新型コロナウイルスのデルタ株が流行しているなかでも、石油製品需要の4週間移動平均は日量2099万バレルまで増加し、昨年3月以来の高水準を更新。米原油生産量は穏やかな回復傾向にあるものの、日量1140万バレルで足踏みしており、原油在庫は昨年1月以来の水準で減少を続けている。

熱帯性低気圧が米メキシコ湾岸へ向かう予報となっていることは支援要因。熱帯性低気圧はキューバを通過しつつ、米ルイジアナ州へと向かう見通しで、製油所が被害を受ける可能性が高い。現地時間の日曜日(29日)から月曜日(30日)にかけて上陸する見通し。カテゴリー3以上のメジャーハリケーンに発達する恐れもある。



Weekly-Report

C X 週間展望 (8月30日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(10月限)は、反発した。熱帯低気圧「アイダ」は27日、ハリケーンに発達したと伝わった。勢いを増して大型ハリケーンになるとみられ、29日にも米メキシコ湾岸に上陸する見通し。襲来に備えて石油企業による従業員の避難が相次いで報じられ、米国の供給が細るとの観測が広がった。

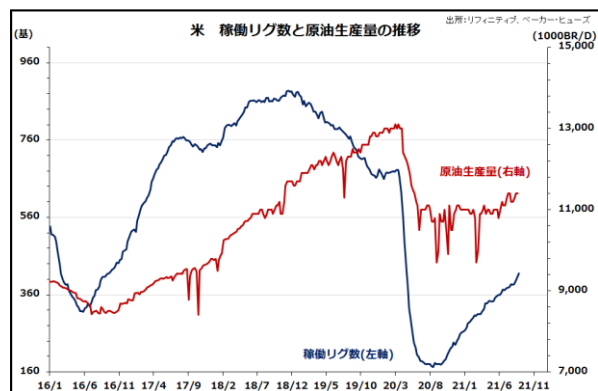
パウエルFRB議長は国際経済シンポジウム(ジャクソンホール会議)で、テーパリング(量的緩和の縮小)は「年内の開始が適切」との考えを表明すると共に、テーパリングは「利上げ時期の直接的なシグナルにならない」とも指摘。緩和的な金融政策が長く続くとの見方からドルが主要通貨に対して下落、株高で反応した事も一因。

CFTC建玉明細(8/24現在)は、374,312枚の買い越し。前週(404,323枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが27日公表した統計によると、同日までの1週間の国内の石油掘削リグ稼働数は前週比5基増の410基と、2020年4月以来の高水準となった。

天然ガス掘削リグの稼働数は、前週と変わらずの97基。



Weekly-Report



C X 週間展望 (8月30日～)

調査課 菊川 弘之

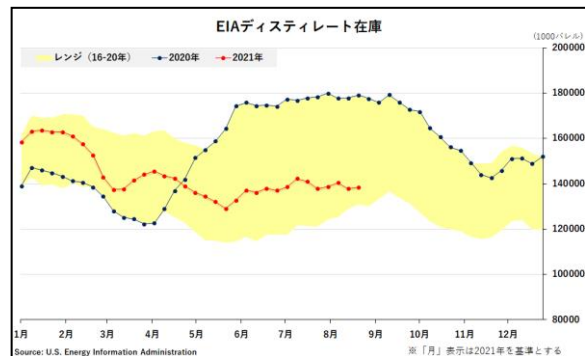
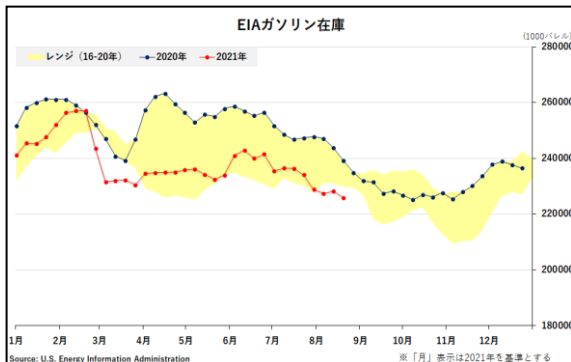
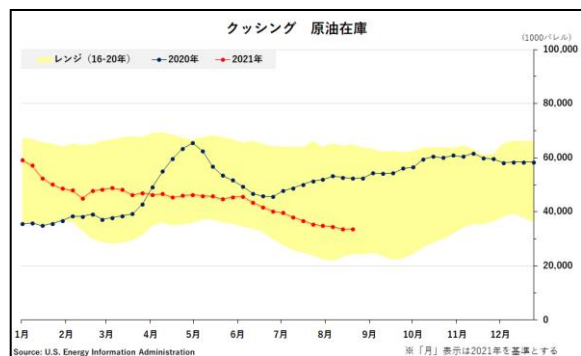
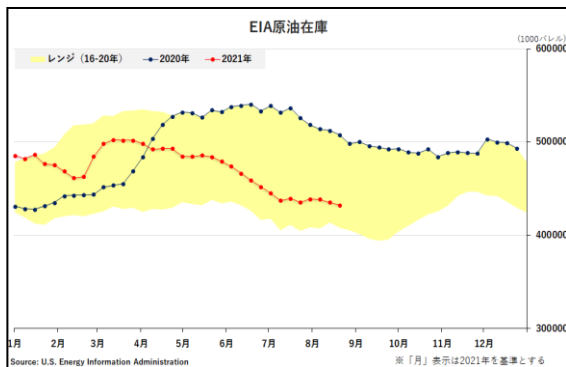
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億3254万バレル
 クッシング 3367万バレル
 ガソリン 2億2593万バレル
 留出油 1億3845万バレル

300万バレル減少
 7万バレル増加
 224万1000バレル減少
 64万5000バレル増加



【石油連盟週報】

石油製品供給統計週報(15～21日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比5.3%増の197万7351キロリットル。灯油在庫は、同3.7%増の208万6540キロリットル。週間原油処理量は3.1%増の296万6100キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが27.6%減の69万5194キロリットル。灯油が26.8%増の9万1188キロリットル。

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望 (8月30日~)

東京原油(4)

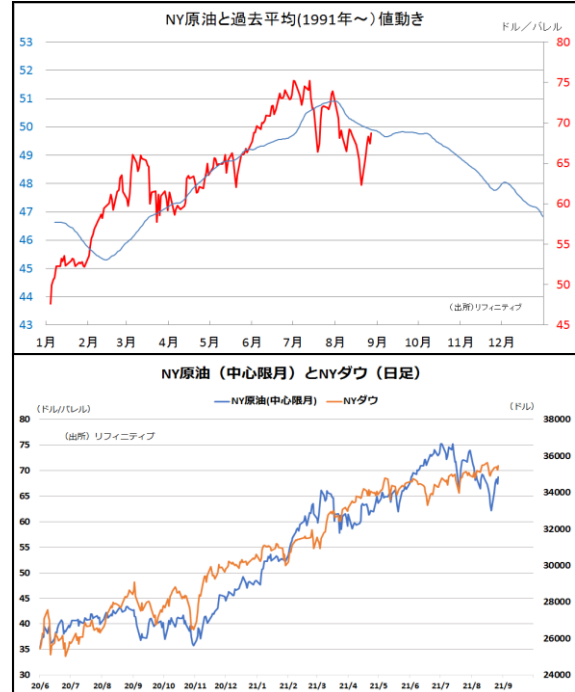
【原油相場見通し】

原油と相関の高いNY株式市場が、米食品医薬品局(FDA)が米ファイザーと独ビオンテックが開発した新型コロナウイルスのワクチンを迅速に正式に承認したことで未接種者への義務化などが拡大し、流行がおさまることが期待された史上最高値を更新した事や、米エネルギー情報局(EIA)週間在庫統計で原油やガソリン在庫が市場予想以上に減少した事に加えて、メキシコ国営石油会社ペメックスの海上油田火災事故や、米メキシコ湾岸のハリケーン発生などが材料視され、200日移動平均線に下支えられ急反発したが、米ドライブシーズンは、9月レイバーデーで終了し、海上油田火災や、ハリケーンも一時的な材料に留まる可能性。ジャクソンホールでのパウエルFRB議長講演は、株価にとっては優しい内容となったが、9月に発表予定の雇用統計次第では、再度テーパリング観測が高まる可能性もある。

米戦略備蓄放出も控えており、米エネルギー情報局(EIA)月間報告で、9月のシェールオイル生産量が2020年5月以来の高水準となる予想も出ている。70ドル~75ドル水準では、戻り売り圧力も高まりそう。

米エネルギー省は23日、戦略石油備蓄(SPR)を最大2000万バレル売却すると発表した。入札は8月31日までで、9月13日まで契約締結、原油の引き渡しは10月1日~12月15日の予定で実施される。

ただし、一時、早期にまとまるのではないかと期待されていた米・イランの核開発合意復帰の協議は後退している。国際原子力機関(IAEA)は8月17日に、イランが中部ナタンズの核施設で濃縮度60%の高濃縮ウランの製造を加速させていると報告した。これで、イランのウラン備蓄を核兵器に転用可能な90%まで速やかに濃縮することが可能になった。イランが核兵器を持てば、サウジも対抗措置として核兵器を持つことは確実視されており、不安定な中東での核拡散は原油市場にとって大きな波乱要因である。



Weekly-Report



C X 週間展望 (8月30日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (8/30~9/5)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
8月30日(月)	8:50	日本	7月	小売業販売額 (前年比)	0.1%
	15:00	英国	8月	ネーションワイド住宅価格 (前年比)	10.5%
	18:00	ユーロ圏	8月	景況指数	1.90
	18:00	ユーロ圏	8月	景況感指数	119.0
	18:00	ユーロ圏	8月	製造業景況感指数	14.6
	18:00	ユーロ圏	8月	サービス部門景況感指数	19.3
	18:00	ユーロ圏	8月	消費者信頼感指数 確定値	
	21:00	ドイツ	8月	消費者物価指数 (CPI) 速報値 (前年比)	3.8%
	21:00	ドイツ	8月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前月比)	0.5%
	21:00	ドイツ	8月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)	3.1%
	23:00	米国	7月	中古住宅販売契約指数 (前月比)	-1.9%
	8:30	日本	7月	有効求人倍率	1.13
	8:30	日本	7月	失業率	2.9%
8月31日(火)	8:50	日本	7月	鉱工業生産 速報値 (前月比) 季調値	6.5%
	10:00	中国	8月	国家統計局 製造業購買担当者景気指数 (PMI)	50.4
	14:00	日本	7月	新設住宅着工戸数 (前年比)	7.3%
	16:55	ドイツ	8月	失業率増減 季調値	-91 (千)
	16:55	ドイツ	8月	失業率 季調値	5.7%
	17:30	英国	7月	英中銀 消費者信用残高	0.308 (十億)
	17:30	英国	7月	住宅ローン貸付額	17.868 (十億)
	17:30	英国	7月	住宅ローン承認件数	81.338 (千)
	18:00	ユーロ圏	8月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)	2.2%
	18:00	ユーロ圏	8月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー除) 速報値 (前年比)	0.9%
	22:00	米国	6月	ケース・シラー20 (前月比) 季調値	1.8%
	22:00	米国	6月	ケース・シラー20 (前年比)	17.0%
	22:45	米国	8月	シカゴ地区購買部協会景気指数	73.4
	23:00	米国	8月	消費者信頼感指数	129.1
	納会	日本	---	ゴムTSR20 2021年9月限納会日	
	納会	日本	---	東京原油・石油スワップ2021年8月限取引最終日	
	納会	米国	---	NYヒーティングオイル2021年9月限納会	
	納会	米国	---	NYガソリン2021年9月限納会	
9月1日(水)	8:50	日本	Q2	財務省法人企業統計 (前年比)	-7.8%
	10:45	中国	8月	財新 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	50.3
	15:00	ドイツ	7月	小売売上高 (前月比) 実質	4.2%
	15:00	ドイツ	7月	小売売上高 (前年比) 実質	6.2%
	16:55	ドイツ	8月	マークイット / BME 製造業購買担当者景気指数 (PMI)	
	17:00	ユーロ圏	8月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	17:30	英国	8月	マークイット/CIPS 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	18:00	ユーロ圏	7月	失業率	7.7%
	21:15	米国	8月	ADP 民間部門雇用者数	330 (千)
	22:45	米国	8月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	23:00	米国	7月	建設支出 (前月比)	0.1%
	23:00	米国	8月	ISM 製造業購買担当者景気指数 (PMI)	59.5
9月2日(木)	23:00	米国	8月	ISM 製造業価格指数	85.7
	18:00	ユーロ圏	7月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	10.2%
	21:30	米国	7月	貿易収支 (USD)	-75.7 (十億)
	21:30	米国	月23日, 週	新規失業保険申請件数	
	21:30	米国	月16日, 週	継続失業保険受給総数	
	21:30	米国	Q2	労働コスト 改定値	1.0%
	21:30	米国	Q2	労働生産性 改定値	2.3%
	23:00	米国	7月	製造業新規受注 (前月比)	1.5%
	10:45	中国	8月	財新 サービス業購買担当者景気指数 (PMI)	54.9
	16:55	ドイツ	8月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI)	
9月3日(金)	16:55	ドイツ	8月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	17:00	ユーロ圏	8月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	17:00	ユーロ圏	8月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	17:30	英国	8月	マークイット/CIPS サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	17:30	英国	8月	準備資産総額	178,114.56 (百万)
	18:00	ユーロ圏	7月	小売売上高 (前年比)	5.0%
	21:30	米国	8月	米雇用統計	
	22:45	米国	8月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	22:45	米国	8月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	
	23:00	米国	8月	ISM 非製造業総合指数	64.1
9月4日(土)	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
9月5日(日)					

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

2021年8月30日（月）

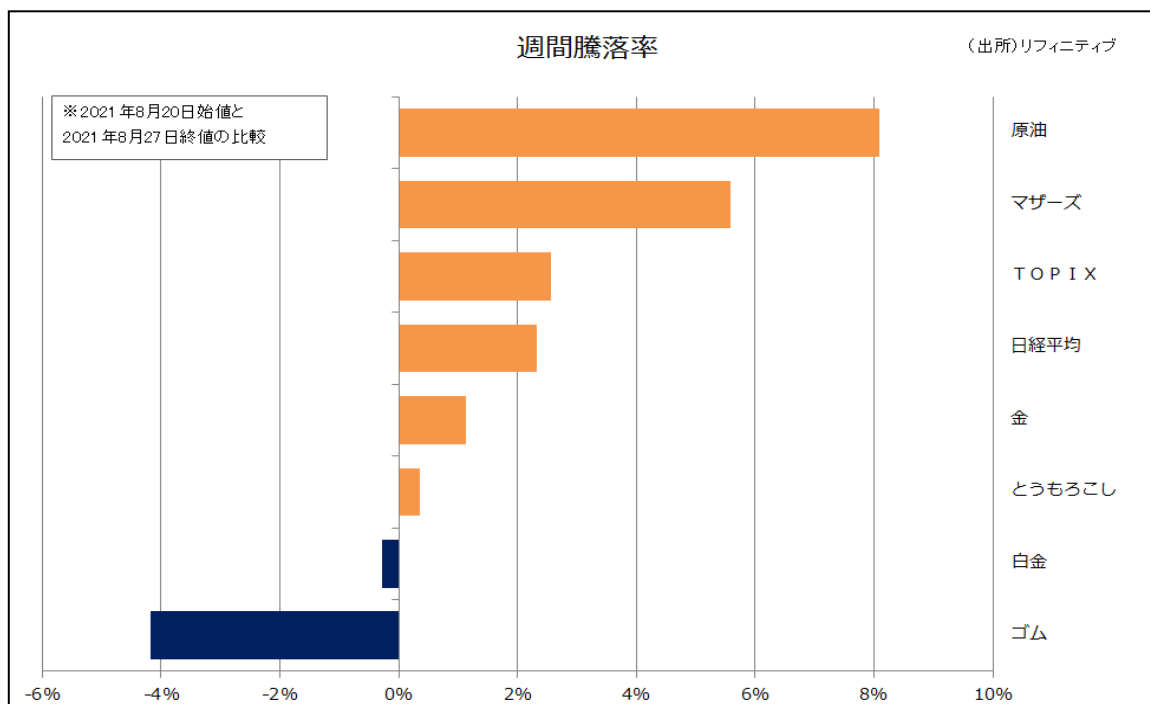
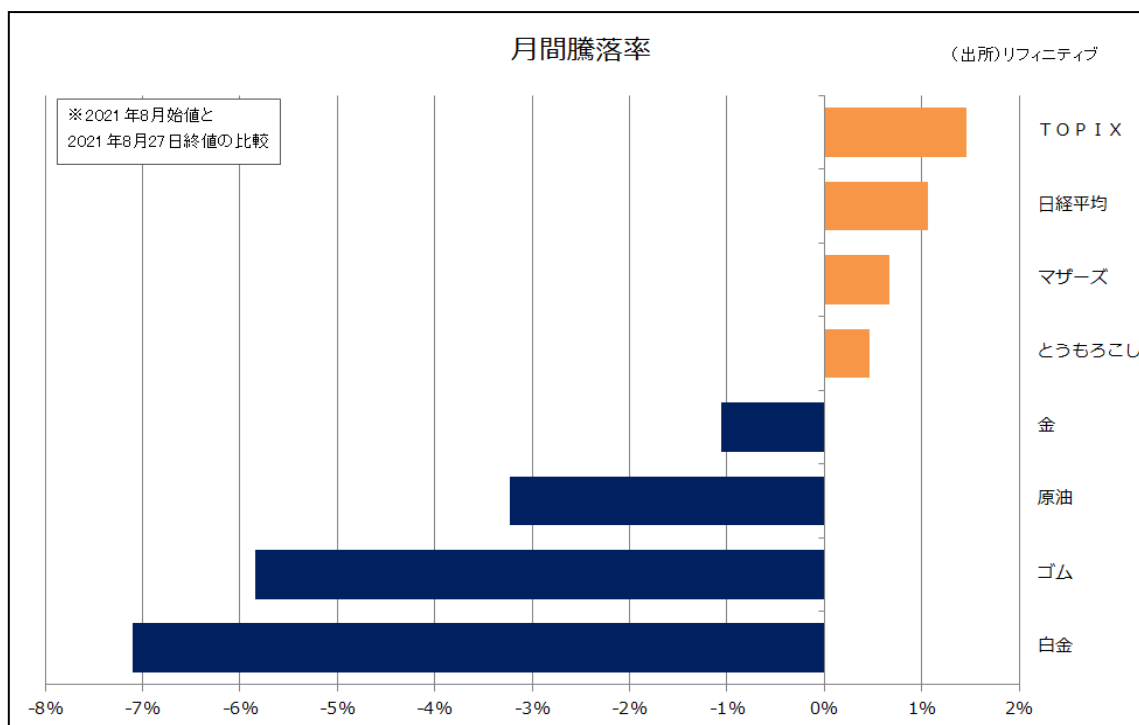
Weekly-Report

CX週間展望（8月30日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

【騰落率（月間・週間）】



15
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

日産証券株式会社

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。